

医療従事者の需給に関する検討会 第2回 医師需給分科会	資料1
平成28年2月4日	

女性医師の労働力について（要旨）

日本女医会 会長 山本 纈子

- 女性医師の労働力について、定量化したデータは存在しないため、以下は厳密なデータに基づく意見ではありません。
- 女性医師の労働力については、既婚・未婚や、子どもの有無・年齢が影響すると考えられます。（女性医師の労働時間の実態とその決定要因—非常勤勤務と家族構成の影響について 中村真由美（社会科学研究 第64巻 第1号）参照）
- 自身の経験や、周囲の女性医師への聞き取りによれば、女性医師の労働力は以下のような印象です。（休職中の女性医師は除いた労働力）

同年代の男性医師の労働力を100%とした場合

	配偶者なし	配偶者あり 子供なし	配偶者あり 子どもあり (中学生未満の子どもあり)	配偶者あり 子どもあり (中学生未満の子どもなし)
労働力	100%	90%	50%	60%

- 昭和の終わりから平成始めは、今のように育休を当たり前にとれる状況ではなく、時間短縮勤務や日当直免除も一般的ではなかったため、父母などにみてもらえる場合を除いては、いったん仕事を完全に辞める人が半数ぐらいいました。
- 最近では、育休、時間短縮勤務や日当直免除が当たり前となり、院内保育や院外保育なども充実してきて、女性医師にとっても働きやすくなってきているようです。